

岩手県第 8 0 回原状回復対策協議会資料

資料 4 ワーキンググループの活動状況について

ワーキンググループの活動状況について

1 概況

今年度第1回目の会合を令和2年8月3日（月）に開催し、普及啓発活動、植栽試験及び現場土地の利活用について、これまでの検討状況の確認及び今後の取組の方向性の整理を行った。

2 普及啓発活動関連

令和2年度事業として、高校生を対象とする出前授業と環境フェスティバルへの出展を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮し、事業見直しを行った。

出前事業	開催を予定していた高校から中止の申し出があり、今年度は中止。来年度の再開について学校と調整していく。
環境フェスティバルへの出展	集客を伴う事業であり3密の回避が難しいことから、感染拡大防止のため開催を中止

学校に対しては、今年度は十分な普及啓発活動ができないが、別な形で取組めるものがないか、検討していく。

事業伝承については、教育や文化などのいわゆる地域づくりと結びつくような形で市民の方々に関心を持ってもらうことが必要であり、今後の検討課題としたい。

3 植栽試験関連

平成29年度はウルシ及びカラマツを植樹し、平成30年度に土壌の透水性の改良等を実施、令和元年度は、冬期間の強風、大雪対策として、一部のアカマツについては雪囲いを、野生動物による食害が懸念されたため、一部のウルシについては食害防止用のカバーを設置した。

生育状況は次のとおりであった。

(1) 樹種別・土壌別の生存率

土壌\樹種	ウルシ	アカマツ	ミズナラ	計
改良土壌	100% (63/63)	82.5% (52/63)	85.7% (54/63)	89.4% (169/189)
非改良土壌	7.1% (3/42)	73.8% (31/42)	88.1% (37/42)	56.3% (71/126)
計	62.9% (66/105)	79.0% (83/105)	86.7% (91/105)	76.2% (240/315)

(2) 生残木の冬期被害の状況

土壌\樹種	ウルシ	アカマツ	ミズナラ	計
改良土壌	3.2% (2/63)	7.7% (4/52)	66.7% (36/54)	24.9% (42/169)
非改良土壌	0.0% (0/3)	16.1% (5/31)	70.3% (26/37)	43.7% (31/71)
計	3.0% (2/66)	10.8% (9/83)	68.1% (62/91)	30.4% (73/240)

※冬期被害の内容は、雪圧による幹折れや枝折れ、動物による幹枝樹皮の食害であること。

(3) 成長成績（平均）

土壌\樹種	ウルシ	アカマツ	ミズナラ
改良土壌	110.1 c m	71.4 c m	71.4 c m
非改良土壌	49.3 c m	61.25 c m	57.1 c m

4 東側エリア（自然回復エリア）の回復状況の観測定点について

(1) 東側エリア（自然回復エリア）内の自然再生エリア（定点観測場所）の設定について

不法投棄現場の利活用策に関し、東側エリア（自然回復エリア）については、自然力による植生回復を目指すこととしている。

東側エリア（自然回復エリア）が自然力により順調に植生回復していくかどうかについては、観測定点から定期的に観察し、確認していく必要がある。

そこで、東側エリア（自然回復エリア）の一部の盛土部分を「自然再生エリア」に設定し、観測定点を定めて、植物群落の遷移（移り変わり）を観測することとした。

(2) 観測定点及び方向について

自然再生エリアの全景が見渡せる場所として、同エリアの北東端を観測定点とし、観測定点から南西方向に向けて観測することとした。



(凡例)

- 東側エリア（自然回復エリア） ()
- 自然回復エリア ()
- 観測定点 ()
- 観測方向 ()

5 講演（NPO法人瀬戸内オリーブ基金の取組）

今後、不法投棄現場の利活用策を検討するに当たって参考とすべき先進事例として、NPO法人瀬戸内オリーブ基金から講師を招き、講演を実施した。（参加者約 30 名）

NPO法人瀬戸内オリーブ基金は1990年に発生した香川県豊島^{てしま}を舞台にした大規模不法投棄事件である「豊島事件」の環境再生について、ユニクロなどの協力企業と相互に協力しながら国立公園の植生回復、企業ボランティアの参画、豊島事件の風化防止（次世代への継承）などの先駆的な取組みをしており、本県の不法投棄現場において特に北西側エリア（事案伝承・森林再生エリア）の検討に資するものであった。

6 今後の活動

今後は、参考事例（「NPO法人瀬戸内オリーブ基金の取組」等）やこれまでの検討内容を踏まえ、北西部の事案伝承・森林再生エリア、中央部の既存物件活用エリア等の実現に向けて具体的に検討していくこととしたい。